



京都国立博物館

だより

KYOTO NATIONAL MUSEUM

2023 January to March vol. 217



新春特集展示

卯づくし

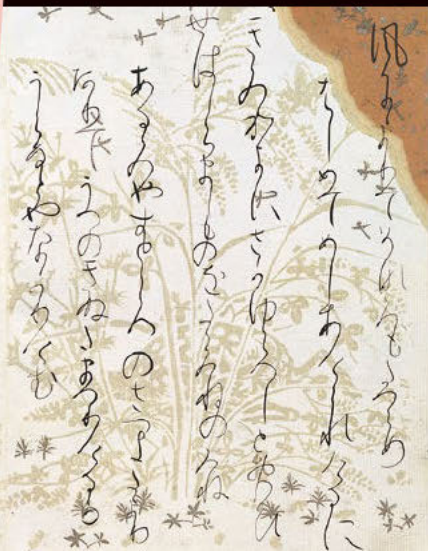
— 千支を愛でる —

特集展示

雛まつりと人形

親鸞聖人生誕八五〇年特別展

親鸞—生涯と名宝



二〇二三年

一・二・三月号

卯づくし

「干支を愛でる」

令和5年1月2日(月・休)～1月29日(日)

【平成知新館 1F-2】

二〇二三年の干支は卯(兔)です。長い耳と、ふわふわの毛並みを持つ兔は、とてもかわいい動物ですね。でも、実は昔の美術の中には、目つきが鋭い、あまり「かわいくない」兔も登場します。どうやら、昔の人と今の私たちでは、兔のイメージは少し違ったようです。



木賊花兔に段文様小袖 京都国立博物館



鈴軸双兔炉蓋 仁阿弥道八作 京都・正伝永源院



月兔時絵象嵌盆 笠翁細工

作品を見るのが楽しくなるワークシート(小学校低学年)

二〇二三年の「干支を愛でる」もファミリー向け!

やさしい解説文(小学校高学年)

兔と一緒に

兔は、「秋草」「波」「木賊(細長くてかわいい植物)」と一緒に描かれることもあります。どうして組み合わせられたのでしょうか? 実はこれらはすべて「月」と関係があるものです。一年の中で一番月が美しい「秋」と、月にいる「兔」が結びついて、「秋草と兔」が描かれるようになりまし。また、お能や和歌の中に、「波と月」「木賊と月」の組み合わせが登場するので、そこから「波と兔」「木賊と兔」の組み合わせが生まれました。「兔と言えば月、月と言えば……」と、連想ゲームのように想像が広がって、兔はいろいろなものと結びつけられて、描かれたのです。

夜空に浮かぶ月の模様に、兔の姿を探したことがありますか? 「月には兔がすんでいる」というお話は、中国から日本に伝わりました。中国では、月の兔は不老不死の薬を作っていると信じられましたが、日本では、餅をついていると言われます。どちらにしても、兔と月はとても繋がりが強いものだと考えられたので、中国でも日本でも「月の中の兔」や「月を眺める兔」を描いた作品が、たくさん作られました。

この展示では、日本や中国の美術の中に表わされた、いろいろな兔をご紹介します。かわいいだけじゃない、兔の姿を探しに、ぜひ博物館に遊びに来てください。(水谷亜希)

3F-1 陶磁

【日本と東洋のやきもの】

1月2日(月・休)～2月26日(日)

3F-2 考古

【特別公開 熊本・宮崎の古墳文化 —石人と貝輪—】

1月2日(月・休)～2月26日(日)

2F-1 絵巻

【弘法大師空海の絵巻

生誕1250年を記念して

1月2日(月・休)～2月5日(日)

【時宗の祖師絵伝】

2月7日(火)～3月5日(日)

2F-2 仏画

【十二天屏風の世界】

1月2日(月・休)～2月5日(日)

【涅槃図】

2月7日(火)～3月5日(日)

2F-3 中世絵画

【中国の名勝—江南と西湖】

1月2日(月・休)～2月5日(日)

【中国の名勝—瀟湘八景】

2月7日(火)～3月5日(日)

2F-4 近世絵画

【京を描く—洛中洛外図屏風】

1月2日(月・休)～2月5日(日)

【京都の狩野派—狩野山楽】

2月7日(火)～3月5日(日)

2F-5 中国絵画

【南張北溥—中国近代の巨匠】

親鸞 生涯と名宝

〔親鸞聖人生誕八五〇年特別展〕

令和5年3月25日(土)～5月21日(日)

前期展示：3月25日(土)～4月23日(日)
後期展示：4月25日(火)～5月21日(日)

※会期中、一部の作品は右記以外にも展示を行います。

〔平成知新館〕

浄土真宗を開いた親鸞聖人は、承安三年(一一七三)に京都で生まれました。九歳で出家して比叡山で修行に励みますが、二十九歳で山を下り、法然上人の弟子となります。そこですべての人が平等に救われるという阿弥陀仏の本願念仏の教えに出会うも、法然教団は弾圧を受け、親鸞も還俗させられ、罪人として越後に流されます。その後、罪が赦されると、関東へ赴き長く布教に励み、やがて京都へと戻り、晩年まで主著『顕浄土真実教行証文類』(教行信証)や「和讃」など多くの著作を執筆し、推敲を重ねました。九十年に及ぶ生涯を布教と研鑽にあてた真摯な姿とその教えは、今も多くの人を魅了して止みません。

本展は、親鸞の生涯八五〇年という節目の年にあたり、生涯の地であり、臨終の地でもある京都において、浄土真宗各派の寺院に御賛助いただき、ご所蔵の法宝物を一堂に会し、その求道と伝道の生涯をたどるものです。自筆の名号・著作・手紙をはじめ、彫像・影像・絵巻などから、親鸞その人を感じていただければ幸いです。

(上杉智英)



快慶、最晩年の優品

重要文化財 阿彌陀如来立像(快慶作)
奈良・光林寺(通期展示)

第二章 親鸞の生涯

親鸞の三十三回忌にあたる永仁三年(一一九五)、曾孫の覚如によって親鸞の生涯を描く絵巻物「親鸞伝絵」が制作されます。本章では、その優品により出家得度から師である法然との出会い、念仏弾圧と越後への流罪、京都での往生、大谷廟堂の成立という九十年の生涯を振り返ります。



威厳溢れる親鸞像

親鸞聖人坐像 三重・専修寺(3月25日～4月16日展示)

現存最古級の親鸞伝絵



国宝 観無量寿経註 巻首 親鸞筆 京都・西本願寺(3月25日～4月30日展示(巻替あり))

第一章 親鸞を導くもの

親鸞は阿彌陀仏の救いが説かれる浄土三部経(無量寿経・観無量寿経・阿彌陀経)を信仰し、その教えを自身に伝えてくれたインド・中国・日本の三国にわたる七人の高僧(龍樹・天親、曇鸞・道綽・善導、源信、源空)を讃えています。本章では、親鸞を語る上で不可欠な阿彌陀仏と浄土三部経、そこに親鸞を導いた七人の高僧を紹介します。

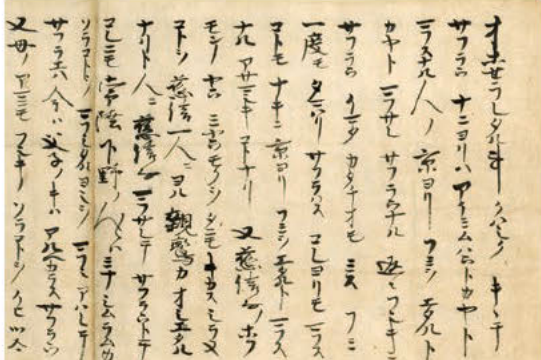


親鸞伝絵の決定版、修理後、初公開

重要文化財 本願寺聖人伝絵(康永本) 上巻・本(部分) (詞書)覚如筆・(絵)廣楽寺円政筆 京都・東本願寺(5月2日～5月21日展示)



重要文化財 善信聖人親鸞伝絵(高田本) 巻第五(部分) (詞書)覚如筆 三重・専修寺(4月25日～5月21日展示)



重要文化財 善鸞善絶状 顕智筆 三重・専修寺(3月25日～4月23日展示)

親鸞八十四歳、息子と縁を切る

- 〔新春特集展示 卯づくし―千支を愛でる―〕
1月2日(月・休)～1月29日(日)
- 〔特集展示 難まつりと人形〕
2月4日(土)～3月5日(日)
- 1F-3 書跡
- 〔きもの近代〕
1月2日(月・休)～2月26日(日)
- 1F-5 金工
- 〔刀を飾るII〕
1月2日(月・休)～2月26日(日)
- 1F-6 漆工
- 〔化粧道具〕
1月2日(月・休)～2月26日(日)
- ※3F-1、2、1F-3、6は、2月26日(火)から3月5日(日)まで閉室となります。

重要文化財 親鸞太子立像(兼美像) 茨城・善導寺(定期展示)



重要文化財 顕智坐像 円慶作 栃木・専修寺(通期展示)

紀年銘を有する最古の真宗僧侶像

第三章 親鸞と門弟

親鸞の言葉が弟子が書き留めた『歎異抄』には「弟子一人ももたずさふらふ」と記されています。しかし、実際には多くの人が親鸞に帰依し、関東を中心として各地に教えを広め継承していききました。本章では、有力な門弟の坐像や交名帳、絵系図により、親鸞の教えの広がりをうかがえます。

第五章 親鸞のこゝろ

親鸞は阿弥陀仏の救済を人々に伝えるため執筆に励み、その活動は最晩年にまで及びます。筆跡にはその人の個性が表れ、文章には筆者の思想や人柄が否応なく表れます。本章では、親鸞自筆の著作や手紙、門弟が書写した著作や法語を紹介し、そこから親鸞その人に迫ります。

唯一無二、親鸞自筆の根本聖典



国宝 教行信証(坂東本) 親鸞筆 京都・東本願寺(通期展示(冊替あり))

東本願寺御影堂の大衝立



桜花園 桜花園/松・藤花園のうち 望月玉泉筆 京都・東本願寺(通期展示)

第六章 浄土真宗の名宝

障壁画・古筆

親鸞の教えは多くの人々を魅了し、浄土真宗は一大勢力として大きく発展を遂げます。そこには法物の他にも数多くの名宝が伝来しています。本章では中でも京都に伝来する宮廷文化の粋を極めた古筆や、京都画壇の手により華やかに堂宇を荘厳する障壁画の優品を紹介しします。

平安貴族の美意識の結晶



国宝 三十六人家集(忠見集)三十七帖のうち九帖(賛・裏書) 蓮如筆 京都・西本願寺(忠見集は5月2日～5月21日展示(帖替あり))

◆親鸞エピソード



重要文化財 親鸞太子立像(兼美像) 茨城・善導寺(定期展示)

(写真提供：神奈川県立金沢文庫)

◎謙虚な姿勢
多くの人々に敬愛された親鸞。その姿勢はとてんで謙虚でした。「親鸞は一人の弟子も持っていないから」「みんな阿彌陀如来の弟子なのだから、みんな同じ仲間です」と語ったと伝わっています。八十五歳の手紙には「目も見えず、物忘れもひどく、人に教える立場ではありません」とも記されています。その人柄がさらに人々を魅了したのかもしれない。

◎夫婦の関係
親鸞は六角堂で救世観音より「私が妻となり寄り添い、臨終には浄土へ導きますよ」との夢告を受けたとされます。一方、妻の恵信尼は娘、覚信尼への手紙に「法然は勢至菩薩、親鸞は観音菩薩である」と夢で告げられたことを記しています。親鸞と恵信尼、奇しくも二人はお互いを親菩薩と敬い合って生涯を共に歩んでいたこととなります。

◎後世への影響
親鸞の教えは与え派・宗教の枠を超え、多くの人の歴史の中で生きてきました。昭和を代表する歴史小説家、司馬遼太郎は「鎌倉時代というのは、一人の親鸞を生んだだけでも偉大だった」「無人島に一冊の本を持っていくとしたら『歎異抄』だ」と書いています。

第七章 親鸞の伝えるもの

浄土真宗の本尊「名号」。親鸞はこれを単なる阿弥陀仏の名前ではなく、阿弥陀仏の救済のはたらきそのものとして、それを称える念仏を説きました。親鸞がインド・中国・日本の七人の高僧より受け継ぎ、九十年の生涯を賭して人々に伝えようとした名号。本章では、親鸞自筆の名号を肖像とともに紹介します。

似絵が伝える親鸞の面影



国宝 親鸞聖人影像(鏡御影)(部分) 覚如賛・尊阿彌陀仏筆 京都・西本願寺(5月2日～5月14日展示)

親鸞八十四歳の自筆名号



六字名号 親鸞筆 京都・西本願寺(5月2日～5月14日展示)

親鸞八十三歳の風貌



国宝 親鸞聖人影像(安城御影副本) (賛・裏書) 蓮如筆 京都・西本願寺(3月25日～4月2日展示)

重要文化財 歎異抄 巻上(部分) 蓮如筆 京都・西本願寺(5月2日～5月21日展示)

張大千と溥心畲

【特集展示】

雛まつりと人形

令和5年2月4日(土)～3月5日(日)

【平成知新館1F-2】



享保雛（大内雛） 京都国立博物館
犬張子・懸盤 入江波光コレクション・入江西一郎氏寄贈 京都国立博物館



衣裳人形 笛吹き若衆
入江波光コレクション
入江西一郎氏寄贈
京都国立博物館



衣裳人形 お迎え人形
入江波光コレクション・入江西一郎氏寄贈 京都国立博物館

年中行事として定着している三月三日の雛まつりですが、人形を飾ってこの日を祝うようになったのは、江戸時代の初めとされています。雛まつりの起源のひとつとされる上巳の節供は、三月のはじめに行われる禊の行事でした。ここでは、日常生活の中で人間に似ていた穢れを移すために人形を用いました。それらは水に流すなどして捨てられるものでした。現代でも「流し雛」として目にする通りです。この習俗がやがて、子どもが遊びに用いる人形と結びつき、江戸時代には座敷に飾りつける豪華な雛人形や雛段へと発展したのです。

江戸時代の雛人形は、元号を冠して呼ばれる寛永雛・享保雛や、考案した人形師の名に由来するという次郎左衛門雛、江戸で誕生した古今雛、公家の装束を正しく写した有職雛など、特徴に応じて分類することができます。この特集陳列では、面差し、衣裳、寸法などに注目し、各種の雛人形の特徴を紹介します。

また人形は、私たちがフィギュアを身近に飾るように、座敷飾りとしても親しまれてきました。とりわけ人形の産地であった京都では、伏見人形・嵯峨人形・御所人形・賀茂人形・衣裳人形と各種の京人形が製作され、公家を中心に人々の生活空間に彩りを添えていました。本年はこの中から、衣裳人形を中心に展示します。衣裳人形とは、美しいものを身に着けた、市井の風俗を映す人形。これらの人形を遊びと旅の場面に見立てて展示し、人形に託して、私たちの願う感染症の収束した世界をご覧いただけます。

ひと足早い春の訪れを、博物館の雛まつりで感じてください。

(山川 曉)

【ミュージアムパートナー一覧】 ※令和4年12月末現在
京都国立博物館の賛助会員制度です。当館の活動について幅広くご支援いただいています。

「ゴールド」土屋 和之

株式会社 のびのびホールディングス

株式会社 俄 / ZSSエプ株式会社

「シルバー」 有限会社 竹内美術店

学校法人 二本松学院

「ブロンズ」 原田清朗

【キャンパスメンバーズ】

※令和4年12月末現在

「京都国立博物館キャンパスメンバーズ」は、国立博物館と大学等との連携を図り、博物館が所蔵する文化財を核として文化や歴史を共に学ぶ場を提供する会員制度です。会員である大学や専修学校の学生および職員の間には、当館名品ギャラリーを無料で観覧いただける機会などさまざまな特典を提供しています。

学校法人 瓜生山学園 / 追手門学院大学

国立大学法人 大阪大学 / 大阪大谷大学 /

大谷大学 / 学校法人 大手前学園

学校法人 関西大学 / 学校法人 関西学院

国立大学法人 京都大学 /

学校法人 京都外国語大学 /

国立大学法人 京都工芸繊維大学 /

学校法人 京都産業大学 /

学校法人 京都女子学園 / 京都市立芸術大学 /

京都精華大学 / 京都先端科学大学 / 京都橘大学 /

京都府立大学 / 近畿大学 /

国立大学法人 滋賀大学 / 四天王寺大学 /

就実大学 / 成安造形大学 / 学校法人 大覚寺学園 /

帝塚山大学 / 学校法人 同志社 /

奈良大学 / 奈良女子大学 /

国立大学法人 奈良先端科学技術大学院大学 /

学校法人 二本松学院 / 花間大学 / 佛教大学 /

学校法人 立命館 / 観谷大学

【寄附】

京都国立博物館では文化財とそれを守り伝えてきた先人の想いを次の1000年へ繋いでいくため、広く寄附を募っております。このたび、左記の方より寄附をいただきました。寄附の趣旨を踏まえ、大切に活用させていただきます。

中川 和子 様

「河内長野の霊地 観心寺と金剛寺—真言密教と南朝の遺産—」観覧記

奈良大学准教授 大河内智之

平安時代初期、空海弟子の実恵と真紹が開き如意輪観音坐像（国宝）を本尊とする観心寺、そして平安時代の末に高野山から阿観が入寺し、先般平成知新館でも展示されその威容を誇った丈六の大日如来坐像（国宝）を本尊とする金剛寺。ともに歴史的にも文化的にも地理的にも高野山との深い結びつきを有した古刹です。

展示の冒頭、来館者は心の準備も整わぬままに、金剛寺に伝わる弘法大師の大幅にまみえます。高野山壇上伽藍御影堂に奉懸された、真如親王親筆とされる大師の影像から二度目の転写本とされる由緒正しき尊影で、現在確認されているなかで最古の大師像です。副題のとおり、真言密教の聖地に伝わる宝物への出会いを予見させる効果的なアプローチから展示室を進むと、さまざまな密教尊像を描いた仏画、多様な密教法具、根来寺等で書写された聖教類が展示室に並びます。彫刻では観心寺の伝宝生如来坐像と伝弥勒菩薩坐像（及び参考出陳の安祥寺大日如来坐像）と、それら平安初期密教彫像への学習のもと造像された平安時代末期の奈良仏師による金剛寺大日如来坐像（多宝塔本尊）が向き合っって展示された空間に驚かされます。これら資料の並びには、真言密教の伝播と継承のあり方を伝えようとする意図が通底しており、まさしく二つの真言寺院の霊宝が一堂に会したことで、こうした魅力的な展示空間が構築されたといえるでしょう。

展示会を構成する上において、同格の複数寺院を対象とするのは、実は難しいことです。それぞれの寺の歴史があり、宝物の由来があり、伝統の重みがありますから、どちらか一方に偏らず、かつ足りないことのないよう、担当者頭を悩ませることになります。その点で、真言密教と南朝遺産という両寺を架構するテーマを設定し、かつ両寺の文化財を分かつずに分野ごとに

紹介した展示方法は、同館展示室の特性も踏まえた適切な解答の一つであったと思われまます。観心寺からの出陳が六十六件、金剛寺からの出陳が六十三件。隅々まで配慮し練られた展示であることが、こうした視点からもうかがえます。

このように練られた展示の中で、特に注目されたのが、同館による調査で新たに見いだされた美術工芸資料の数々です。本展自体、平成二十八年度から令和元年度まで科学研究費助成事業として実施した「河内地域の仏教文化と歴史に関する総合的研究」の成果報告を兼ねており、同館からは「社寺調査報告」三冊、科学研究費補助金の二冊の報告書が発行されています。以前から「京都社寺調査」というかたちで、多くの館員が一丸となり専門性を生かした調査活動を行ってきた京都国立博物館の伝統があつてなした事業と評価できます。

中でも、観心寺の大壇具や、法橋栄賢筆の紅顔梨阿弥陀像など、従来国立館では展示される機会が少なかった江戸時代の宗教美術資料を高く評価していたことに、大きな共感を覚えました。日本美術史の枠組みと射程を、より大きくより長くとらえるためには、旧来の評価にとまらない新たな価値を資料から見出していく必要があります。それはまさしく調査の現場で研究員が悩みながら評価し、知識と経験を蓄え、展示という場を通じて観覧者と価値を共有していく中で、構築されていくものと思います。

多分野にわたる研究者を擁する国立博物館としての社会的責務を果たすという観点からも、今後も同様の調査研究活動を続けられ、またその成果としての展示会が引き続き開催されますことを、京博の展示会に多くのことを教わってきた一人の学徒として、また熱烈なファンとして強く望んでいます。

講座・イベント

《土曜講座》

1月14日(土)「美しい卯づくし—兎のかたちをめぐる—」

京都国立博物館主任研究員 水谷亜希

1月21日(土)「考古学からみた月のウサギ—月兎二千年史—」

京都国立博物館特任研究員 宮川禎一

1月28日(土)「古墳時代の文字資料

—熊本県古城横穴墓群出土「火守」銘の位置—」

京都国立博物館研究員 古谷 毅

2月11日(土・祝)「定朝様と京都の仏像」

京都国立博物館上席研究員 浅瀨 毅

2月18日(土)「涅槃図をなるべく楽しく見るために」

京都国立博物館保存修理指導室長 大原嘉豊

2月25日(土)「屋根を飾る鴟尾」

京都国立博物館考古室長 石田由紀子

3月4日(土)「唐代文化の受容と展開—飛鳥時代から平安時代まで—」

京都国立博物館館長 松本伸之

※平成知新館 講堂にて13時30分～15時に開催。定員200名(予定)、聴講無料(ただし当日の観覧券等が必要)。

※当日10時より、平成知新館1階グランドロビーにて整理券を配布し、定員になり次第配布を終了します。整理券配布の待ち列が長くなり、適切な間隔が保てないと判断した場合には、配布の開始を早めさせていただきます。

《留学生の日》

京都国立博物館では、留学生の方々に日本文化への理解を深めていただくため、「留学生の日」を設けています。今年度は1月9日(月・祝)に実施します。留学生の方は、学生証をご提示いただくと、無料で名品ギャラリー(平常展示)をご観覧いただけるほか、同日開催予定の「芸舞妓 春の舞」イベント(日本語での公演)を優先的にご予約いただけます。この機会にぜひご来館ください。

《芸舞妓 春の舞》

【日時】1月9日(月・祝) 午前11時～、午後1時～ *各回約30分

【会場】平成知新館 講堂

【参加方法】事前予約優先制、定員200名(予定)、無料(ただし、当日の観覧券等が必要)。

詳しくは京都国立博物館ウェブサイトをご覧ください。

《京都・らくご博物館【冬】～新春春席～ vol.65》

【日時】2月10日(金) 午後6時30分開演(午後6時開場)

【会場】平成知新館 講堂

【出演】桂弥つこ 桂ちょうば 桂雀喜 <中入> 桂米平 桂千朝

【入場料】3200円(キャンパスメンバーズは学生証提示により2600円)

※全席指定、名品ギャラリー観覧券付

※チケットは12月17日(土)10:00～2月10日(金)17:00まで、ローンチケット(Lコード:56218)にて販売。

《春のクラシックコンサート》

【日時】2月26日(日) 午前11時～、午後2時～ *各回約40分

【会場】平成知新館 講堂

【参加方法】事前予約優先制、定員200名(予定)、無料(ただし、当日の観覧券等が必要)。

詳しくは京都国立博物館ウェブサイトをご覧ください。

《特別展「親鸞—生涯と名宝」記念講演会》

3月25日(土)「親鸞聖人の生涯」 大谷大学名誉教授 草野顕之 氏

【時間】13時30分～15時

【会場】平成知新館 講堂

【定員】200名(予定) ※変更する場合があります。

【料金】聴講無料(ただし、講演会当日の特別観覧券が必要)

【応募方法】 展覧会公式サイト(<https://shinran850.jp/>)より必要事項を入力の上お申し込みください。先着順、定員になり次第申し込みを締め切ります。参加証は開催日の2週間前までにお送りします。

※聴講の際は当日の観覧券が必要です。開始時間前までにご入館いただき、講堂入口にて参加証をご提示ください。

※お預かりした個人情報は、本展記念講演会の事務のみに使用します。

これからの展覧会

◆特別展 東福寺

令和5年10月7日(土)～12月3日(日)

新型コロナウイルス感染症予防、拡大防止のため、展覧会やイベントの中止や延期、会期や展示期間の変更などを行う場合がありますので、最新情報については、当館ウェブサイト等をご確認くださいませようお願いいたします。

◆名品ギャラリーの休止予定◆

特別展の前後を含めた期間は、展示作業等のため、名品ギャラリーを休止しております。ご来館の皆様にはご不便をおかけいたしますが、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

名品ギャラリー休止期間：3月7日(火)～3月23日(木)

※名品ギャラリー休止期間中は庭園のみ開館となります。

ご利用案内

【開館時間】<1月2日～3月23日> 9:30～17:00

<3月25日～5月21日> 9:00～17:30

*入館は各閉館の30分前まで

【観覧料】【名品ギャラリー】<1月2日～3月5日>

一般700円、大学生350円

*高校生以下および満18歳未満、満70歳以上無料、障害者とその介護者1名は無料(要証明)。

*キャンパスメンバーズ(含教員)は学生証または教職員証をご提示いただくと、無料となります。

【庭園のみ開館期間】<3月7日～3月23日>

一般300円、大学生150円

*高校生以下および満18歳未満、満70歳以上無料、障害者とその介護者1名は無料(要証明)。

*キャンパスメンバーズ(含教員)は学生証または教職員証をご提示いただくと、無料となります。

*有料(一般のみ)にてご入館の方は、庭園ガイド冊子がございます。

【特別展「親鸞—生涯と名宝」】

<3月25日～5月21日>

一般1800円、大学生1200円、高校生700円

*中学生以下、障害者とその介護者1名は無料(要証明)。

*キャンパスメンバーズ(含教員)は学生証または教職員証をご提示いただくと、各種当日通常料金より500円引きとなります。

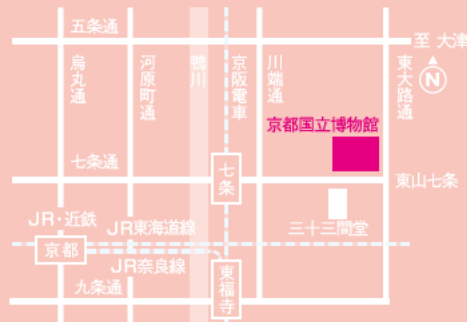
【休館日】月曜日(ただし1月2日(月・休)、9日(月・祝)は開館、10日(火)休館)、

12月26日～令和5年1月1日、3月24日

アクセス

JR=京都駅下車、市バスD2のりばより206・208号系統にて博物館三十三間堂前下車すぐ
プリンセスラインバス京都駅八条口のりばより京都女子大学前行にて東山七条下車、徒歩1分
近鉄電車=近鉄丹波橋駅下車、京阪電車丹波橋駅から出町柳方面行にて七条駅下車、東へ徒歩7分
京阪電車=七条駅下車、東へ徒歩7分
阪急電車=京都河原町駅下車、京阪電車祇園四条駅から大阪方面行きにて七条駅下車、東へ徒歩7分
駐車場は有料となっております。ご来館の際は、なるべく公共交通機関をご利用ください。

*「博物館だより」を郵送ご希望の方は、返信用封筒(角2封筒は120円、長3封筒は94円切手貼付、宛名明記)を同封して、当館企画室までお申し込みください。



〒605-0931 京都市東山区茶屋町527

TEL. 075-525-2473 (テレホンサービス)

ホームページ <https://www.kyohaku.go.jp/>

発行日 令和5年1月1日 デザイン 谷なつ子

編集・発行 京都国立博物館 印刷 株式会社ライブアートブックス

京都国立博物館
KYOTO NATIONAL MUSEUM

